

クレマチスとテッセン、カザグルマ

クレマチスは、古くから親しまれているガーデンプランツの一つです。英国ではつる性植物の女王として位置づけられ、バラのパートナープランツとして親しまれています。

テッセンと呼ばれることもありますが、じつはテッセンとは、中国に自生している、6枚の乳白色の花弁をもち、雄しべが花弁化している一つの原種のことです。

また日本原産の種は風車(カザグルマ)といえます。

クレマチスは、世界にたくさんの野生種、原種があり、これらの交配によって、多くの品種が生まれています。

日本原産のカザグルマや中国原産のテッセンなどが欧米にわたり、交配され、日本に逆輸入されたものが、クレマチスです。

開花期 4月～11月



テッセン(中国原産)

中国原産の原種。節々に小、中輪の花を長期間咲かせる、乳白色の花弁と花弁化した紫色のおしべとのコントラストが美しい。和、洋どちらの趣も楽しめる。

おしべが花弁化している、花びらは6枚

冬に強い



カザグルマ(日本原産)

カザグルマ (風車、学名: *Clematis patens* C.Morren et Decne.) は、キンポウゲ科センニンソウ属の落葉性つる性多年草。本州、四国、九州北部、東アジアに分布し、おもに林縁に生える。鑑賞用にも植えられている。

奈良県宇陀市の「カザグルマ自生地」が、1948年(昭和23年)1月14日に国の天然記念物の指定を受けた。

茎は褐色で木質化する。葉は長さ3-10cmの小葉3-5枚からなる羽状複葉、5-6月に短い若枝の先に白色または淡紫色の花を単生する。花びらのように見える萼は普通8枚で長さは7-8cmだが、種類により変異が大きい。瘦果は広卵形で、黄褐色の羽毛状となる

